



世界へのプレゼントになろう

# Weekly Report

次の世代に形を残そう

佐世保北ロータリークラブ 2015～2016年度 R I 会長 / K.R. ラビンドラン ガバナー/ 宮崎清彰

会長/中野雄一郎 幹事/森 豊 例会場/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店8Fカトリアホール（毎週月曜日）  
 創立/1984. 4. 16 認証/1984. 5. 14 事務局/佐世保市上京町6番21号 上京ビル4階 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201  
 E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本 日】会員数44名 出席 28名 欠 席 2名 出席規定免除会員 (14) 出席 9名 ビジター 0名 出席率 94.87%  
 【前々回】会員数44名 出席 25名 メークアップ 5名 出席規定免除会員 (14) 出席 10名 修正出席率 100.00%

## 《従業員招待例会 映画鑑賞》

### 「シビルウォー キャプテン・アメリカ」



毎年恒例の従業員招待例会は、昨年同様、映画鑑賞例会として時間を短縮しての開催となりました。

従業員の皆様及び北クラブ会員を併せて172人の多くの参加をいただき楽しい映画鑑賞例会となりました。

今回上映された映画は、キャプテン・アメリカとアイアンマンという「アベンジャーズ」を代表する2人のヒーローの対立を描く映画『シビルウォー キャプテン・アメリカ』でした。

げます。限られた時間ではありますが楽しい時間お過ごしください。

## 《幹事報告》

森 豊 幹事

### 1. 例会変更

#### ・佐世保西RC

5月24日（火）12：30→18：30～

『ザッコ』（夜の例会&新入会員歓迎会のため）

#### ・佐世保中央RC

5月19日（木）12：30～セントラルホテル佐世保→  
13：00～ 日本料理 保名（職場訪問例会のため）

#### ・佐世保東南RC

5月18日（水）森きらら（バラ鑑賞会例会のため）

### 2. 来 信

#### ・国際ロータリー

ザ・ロータリアン 5月号

#### ・国際ロータリー日本事務局

5月ロータリーレート 1ドル=110円  
[RIJO-FAQ] 配信履歴（～2016年4月末）

#### ・ガバナー事務所

ガバナー月信5月号

#### ・長崎RC

第37回RYLAお知らせ並びにお願い

### 3. 伝達事項

5/16（月）次回例会はゲスト卓話、海上自衛隊佐世保地方総監 海将 山下万喜 様です。

## 《会長挨拶》

### 中野 雄一郎 会長

4月17日の地震で熊本県・大分県において甚大な被害を受けました。多くの人が避難生活している状況です。まだまだ復旧復興には時間が掛かるようです。両県の被災者の皆様に心からお見舞い申し上げ、早い復旧復興を祈念したいと思います。

本日の従業員招待映画例会に、沢山の従業員の皆さんにお集まりいただき誠に有難うございます。

又、日頃よりロータリー活動にご理解・ご協力いただいております事に感謝申し上げます。

私ども佐世保北RCは32年間、毎週月曜日に例会を開催し、会の運営・協議或いは自己研鑽に努め職業を通じ地域に世界に貢献しております。今後共ご支援・ご理解を頂きますようお願い申し上げます。

本日の例会のために準備頂いた職業奉仕研修委員会と奉仕プロジェクト委員会の皆様に心より感謝申し上げ

**難民危機と向き合う**

『The Rotarian』誌2016年5月号より

昨年、シリア、イラク、アフガニスタンからヨーロッパに流れ込んだ難民は100万人以上。そのほとんどは危険なゴムボートでトルコからエーゲ海を渡ってギリシャに上陸し、そこから北上して（しばしば徒歩で）バルカン半島の険しい山を越え、1,000マイル以上離れたドイツへと向かいます。

クルド系シリア人、ムハンマド・マラー・ハムザさん（26）も、2014年下旬にこのルートでヨーロッパに逃れた一人です。苦難の末、オーストリアの美しい町にたどり着いたマラー・ハムザさんは、地元ロータリークラブの援助の下、新たな生活をスタートさせました。現在は自分と同じ境遇の難民の支援に当たっています。

私がマラー・ハムザさんと出会ったのは、彼の住むオーストリア南東部シュタイアーマルク州の小さな町、フェルトバッハ。白ワインとパンプキンシードオイルの産地として有名なこの町は、人口わずか5,000人程度、中東の混乱とはかけ離れた静かな町です。学校と教会はこざいりで、銀行と薬局はびかぴか。騒音といえば自転車のベルくらい。この町に現在、約150人の難民が暮らしています。

穏やかに話すマラー・ハムザさんは、オーストリア人の言葉でいえば「sympathisch（親しみやすい）」人柄で、母国シリアについて話すとき以外はいつも笑顔です。英文学の学位を取得してダマスカス大学を卒業したばかりの彼は、軍役免除が受けられなくなり、アサド政権の下、イスラム国（IS）を含む反政府軍との戦闘に駆り出される寸前でした。「イスラム国と戦って死ぬのは嫌でした」と話します。

シリアからシュタイアーマルク州までの2カ月にわたる危険な旅は、中東からヨーロッパに逃れてくる難民の誰もが体験する壮絶なものでした。最初にシリア国境を越えてトルコに逃れ、そこからギリシャに渡るために密入国あっせん者が用意したのは、9フィートのゴムボートでした。海を渡れるような代物ではないこのちっぽけなボートに、彼のほか7人が乗り込みました。マラー・ハムザさんはその時を振り返って次のように語ります。「ある晩には激しい雨が降り、悲惨な状態でした」

ギリシャに着くと、マラー・ハムザさんは警察に投降し、難民収容所への入所手続きを始めるために一時身柄を拘束されました。そこではじめて、ヨーロッパ人の多く（おそらくほとんど）が難民を歓迎していないことを知りました。「警察にはまるで動物扱いをされました。3日間、食事や水も与えられず、体に触るときは、まるで伝染病患者でもあるかのように、マスクと手袋をはめていました」

ギリシャからは、西欧に向けたつらい旅が始まりま

した。アルバニアの森の中を2週間歩き続けたマラー・ハムザさんと仲間たちは、現地の国境警備隊員と親しくなり、首都ティラナのアパートにかくまってもらったこともありました。アルバニアからは夜間に国境を越え、モンテネグロ、セルビア、ハンガリーと、警官やホテル受付係にわいろを払いながら、最終的にウィーン（オーストリア）から南へ20マイルの地点にある難民キャンプにたどり着きました。ここでオーストリア政府に正式な難民申請を提出したマラー・ハムザさんは、フェルトバッハからそう遠くないエデルスバッハという村の仮宿舎に入りました。

仮宿舎に入った翌朝、パンを買いにエデルスバッハの村を歩いていたとき、マラー・ハムザさんは、69歳のパン職人フリッツ・フンメルさんと出会いました。この出会いは、マラー・ハムザさんにとって、また、フェルトバッハ・ロータリークラブにとっても、運命的なものとなりました。すぐに意気投合した二人。「私を息子のように扱ってくれた」とマラー・ハムザさんは言い、フンメルさんも、「なかなかの好青年」と親しみを込めて話します。

続きは『The Rotarian』誌2016年5月号をご覧ください。

《ニコニコBOX》

村瀬高広 親睦活動委員

**中野雄一郎 会長 宮原明夫 副会長 森 豊 幹事**  
奉仕プロジェクト委員会及び職業奉仕研修委員会の皆様、映画例会のお世話ご苦労様です。映画楽しく観賞させていただきます。小川寛会員、地区新人研修セミナー出席ありがとうございました。藤井エレクト会長、村瀬会員、三谷会員、島原歩行ラリー完歩おめでとうございます。

**奉仕プロジェクト委員会 職業奉仕研修委員会**  
**中山 誠君 湯口純二君 松田信哉君 小川一貴君**  
**渡会祐二君 棧 護君**  
本日はたくさんの従業員の皆様にご参加いただきありがとうございました。奉仕プロジェクトの協力のもと、職業奉仕研修委員会が担当させていただきます。シビルウォー、ゆっくりお楽しみ下さい。

**小西宗十君 福田俊郎君 三谷秀和君 田島 慎君**  
**八木順平君 平石晃一君 緒方信行君 近藤竜一君**  
**松尾重巳君 村瀬高広君 松永祐司君 豊島揆一君**  
**鳥越敏博君 峯 徳秀君 藤井良介君 永田武義君**  
**富田耕司君 牧野博一君 蒲池芳明君 二ノ宮 健君**  
職業奉仕研修委員会・奉仕プロジェクト委員会の皆様、今日はお世話になります。準備が大変だったと思います。ありがとうございます。

本日の合計 34,000円

累計 1,445,000円